

同和問題に関する

第6次意識調査結果(その一)

趣旨

現在までの同和教育の取り組みを見直し、町民一人ひとりの人権が大切にされ、すべての町民が幸せに生活できるまちづくりをめざすためのものです。

調査期間

6月20日(水)～7月10日(火)

調査対象

無作為・年齢別配分抽出法による20歳以上の男女、1,000名

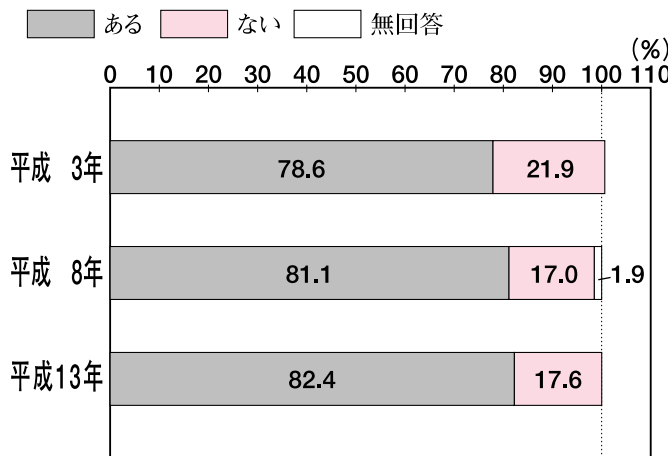
調査方法 郵送法

回収率 45・6%

今回で、第6次の意識調査となりました。回を重ねるにつれ、回収率が上がり、町民皆さんの同和問題に対する意識の高まりがうかがえます。また、同和問題に対する正しい認識も次第に定着しており、関係各位のご支援のたまものと感謝しております。今後、調査結果を4回にわたり掲載します。ご協力いただきました皆様方に、心よりお礼申しあげます。

問1

今までに同和問題について学習したことがありますか。
《同和問題を学習したことがある人となない人》

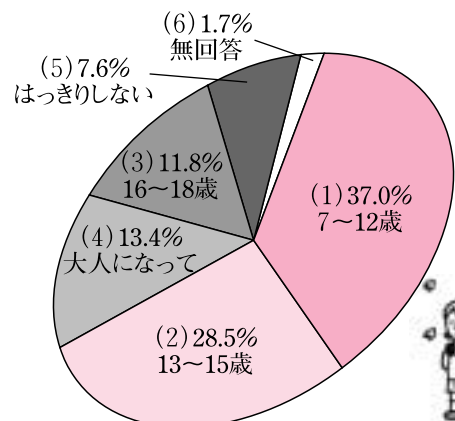


「ある」の割合が増え、「ない」の割合が減る傾向にあるのは、学校教育・職場などにおける同和教育や啓発の成果と考えられます。今後、さらに同和問題への認識を深めるために、さまざまな機会や場所で、同和問題を啓発していく必要があると思います。

問3

同和問題を、いつごろ知りましたか。
《同和問題を知った時期》平成13年度調べ

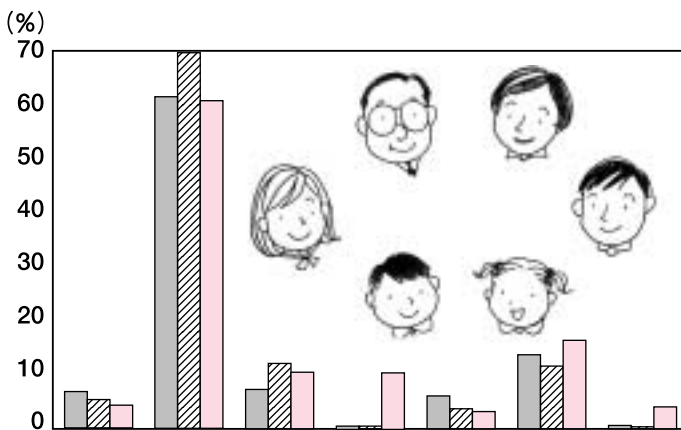
はじめて知った時期は7～15歳代が5%と多く、義務教育における同和教育の大切さを示しています。また、高等学校とも連携をとりながら、さらに教育を推進する必要があります。そして、学校だけでなく家庭においてももしっかりとした同和問題学習を行う必要があると思います。



問2

同和問題の起源についてどう思いますか。
《同和問題の起源についての認識》

政治起源説が高い割合なのは、同和教育の成果です。また、学校で同和教育を受けたことが「ある人」が「ない人」に比べて政治起源説と答えた人の割合がかなり高い結果が出たのも大きな成果のあらわれといえます。しかし、「わからない」と答えた人もいるので、今後、各分野において同和教育の徹底をはからなければならぬと思います。



	渡来	政治	職業	宗教	貧困	分からない	その他
H 3	6.6	62.1	7.2	1.4	5.4	12.4	1.4
H 8	4.8	69.4	11.0	1.3	3.8	10.2	0.3
H13	3.7	61.8	9.5	9.5	3.2	15.5	3.9

※重複・複数・無解答があるため、合計が100%にならない場合があります。